

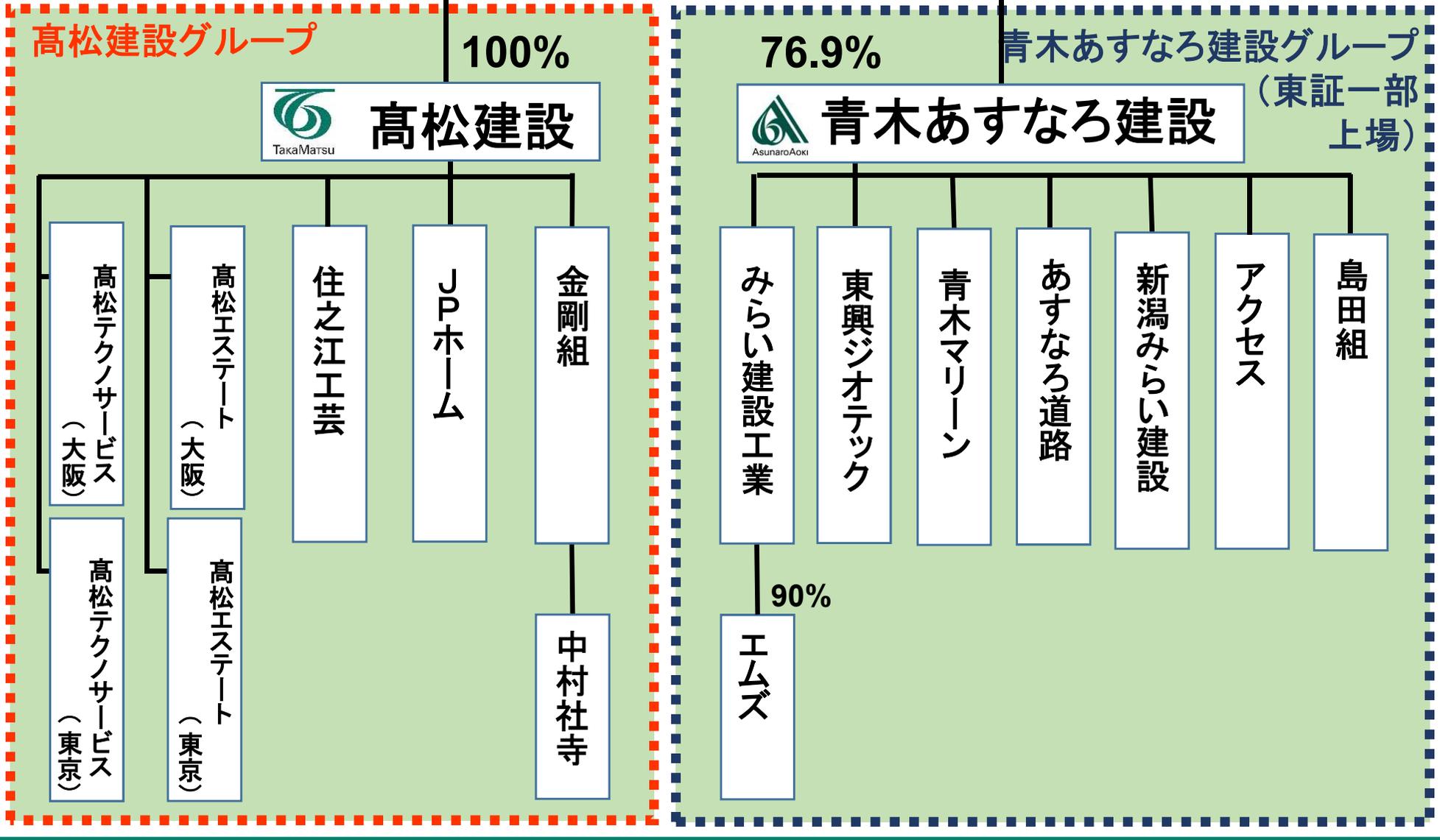
2017年3月期 本決算
2018年3月期 業績予想
2020年3月期 中期経営計画
説明資料

株式会社高松コンストラクショングループ

証券コード:1762

本資料に記載されている将来に関する記述は、本資料作成日現在で入手可能な情報にもとづいて作成したものであり、実際の実績等は今後様々な要因によって異なる可能性があります。また、当資料は投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

 高松コンストラクショングループ



保有比率は記載ない場合は全て100%

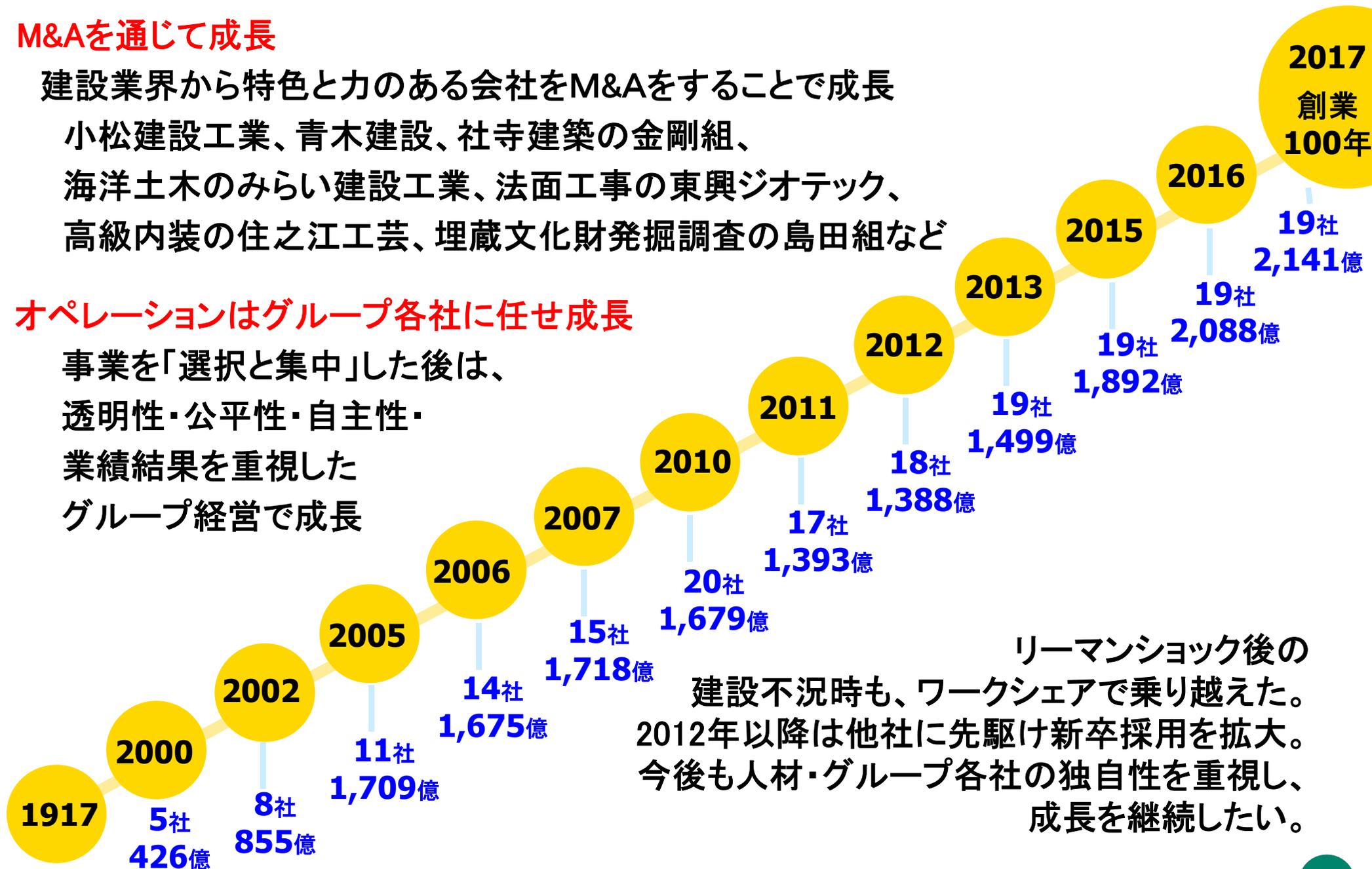
高松コンストラクショングループの特徴

M&Aを通じて成長

建設業界から特色と力のある会社をM&Aをすることで成長
小松建設工業、青木建設、社寺建築の金剛組、
海洋土木のみらい建設工業、法面工事の東興ジオテック、
高級内装の住之江工芸、埋蔵文化財発掘調査の島田組など

オペレーションはグループ各社に任せ成長

事業を「選択と集中」した後は、
透明性・公平性・自主性・
業績結果を重視した
グループ経営で成長



リーマンショック後の
建設不況時も、ワークシェアで乗り越えた。
2012年以降は他社に先駆け新卒採用を拡大。
今後も人材・グループ各社の独自性を重視し、
成長を継続したい。

2017年3月期 本決算

本資料に記載されている将来に関する記述は、本資料作成日現在で入手可能な情報にもとづいて作成したものであり、実際の実績等は今後様々な要因によって異なる可能性があります。また、当資料は投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

業績(連結)の推移

1. 受注・売上ともに5期連続増収、3期連続で過去最高。
2. 営業利益も2期連続で過去最高。
3. 親会社株主帰属当期純利益は対前期+13.7%。

(過去最高=
 単位:億円
 億円未満切捨)

項 目	2013/3期		2014/3期		2015/3期		2016/3期		2017/3期	
										増減率(%)
受注高	↗ 1,613	↗ 1,938	↗ 2,256	↗ 2,377	↗ 2,564					7.9
売上高	↗ 1,499	↗ 1,777	↗ 1,892	↗ 2,088	↗ 2,141					2.5
営業利益 (営業利益率%)	47 (3.1)	↗ 65 (3.7)	↗ 71 (3.8)	↗ 104 (5.0)	↗ 129 (6.0)					24.2
営業外収支	1	1	0	0	0					-
経常利益 (経常利益率%)	48 (3.2)	↗ 66 (3.8)	↗ 72 (3.8)	↗ 104 (5.0)	↗ 129 (6.0)					23.5
特別損益	1	22	20	△6	△9					-
親会社株主帰属 当期純利益 (当期純利益率%)	29 (1.9)	↗ 61 (3.5)	↗ 63 (3.4)	57 (2.8)	↗ 65 (3.1)					13.7

グループ別 受注高・売上高・売上総利益（連結）

1. 受注高は7.9%増の2,564億円、土木、建築とも増加。高松Gの伸びが大。
2. 売上高も2.5%増の2,141億円。土木は震災復興関連の反動もあり減少したが、建築は両グループ好調で12%の増。
3. 営業利益は24%の大幅増。土木は売上高の減少もあり△10%の減益となったが、建築は53%の大幅増益。

高松コンストラクショングループ

高松建設グループ

青木あすなる建設グループ

高松建設グループ		青木あすなる建設グループ		土木	建築	不動産	受注高	売上高	営業利益
高松建設	高松テクノサービス	高松テクノサービス	住之江工芸	J.P.ホーム	金剛組	中村社寺	17/3 (16/3)	17/3 (16/3)	17/3 (16/3)
高松テクノサービス	高松テクノサービス	高松テクノサービス	住之江工芸	J.P.ホーム	金剛組	中村社寺	1,127 (1,090)	921 (972)	50 (55)
高松テクノサービス	高松テクノサービス	高松テクノサービス	住之江工芸	J.P.ホーム	金剛組	中村社寺	+3%	△5%	△10%
高松テクノサービス	高松テクノサービス	高松テクノサービス	住之江工芸	J.P.ホーム	金剛組	中村社寺	1,315 (1,152)	1,098 (982)	104 (68)
高松テクノサービス	高松テクノサービス	高松テクノサービス	住之江工芸	J.P.ホーム	金剛組	中村社寺	+14%	+12%	+53%
高松テクノサービス	高松テクノサービス	高松テクノサービス	住之江工芸	J.P.ホーム	金剛組	中村社寺	121 (133)	121 (133)	7 (10)
高松テクノサービス	高松テクノサービス	高松テクノサービス	住之江工芸	J.P.ホーム	金剛組	中村社寺	△9%	△9%	△27%
受注高	960	1,611	2,564				17/3 (16/3)	17/3 (16/3)	17/3 (16/3)
	(791)	(1,585)	(2,377)				+21%	+2%	+7.9%
売上高	763	1,379	2,141				17/3 (16/3)	17/3 (16/3)	17/3 (16/3)
	(695)	(1,392)	(2,088)				+10%	△1%	+2.5%
営業利益	62	74	129				17/3 (16/3)	17/3 (16/3)	17/3 (16/3)
	(51)	(58)	(104)				+22%	+27%	+24%

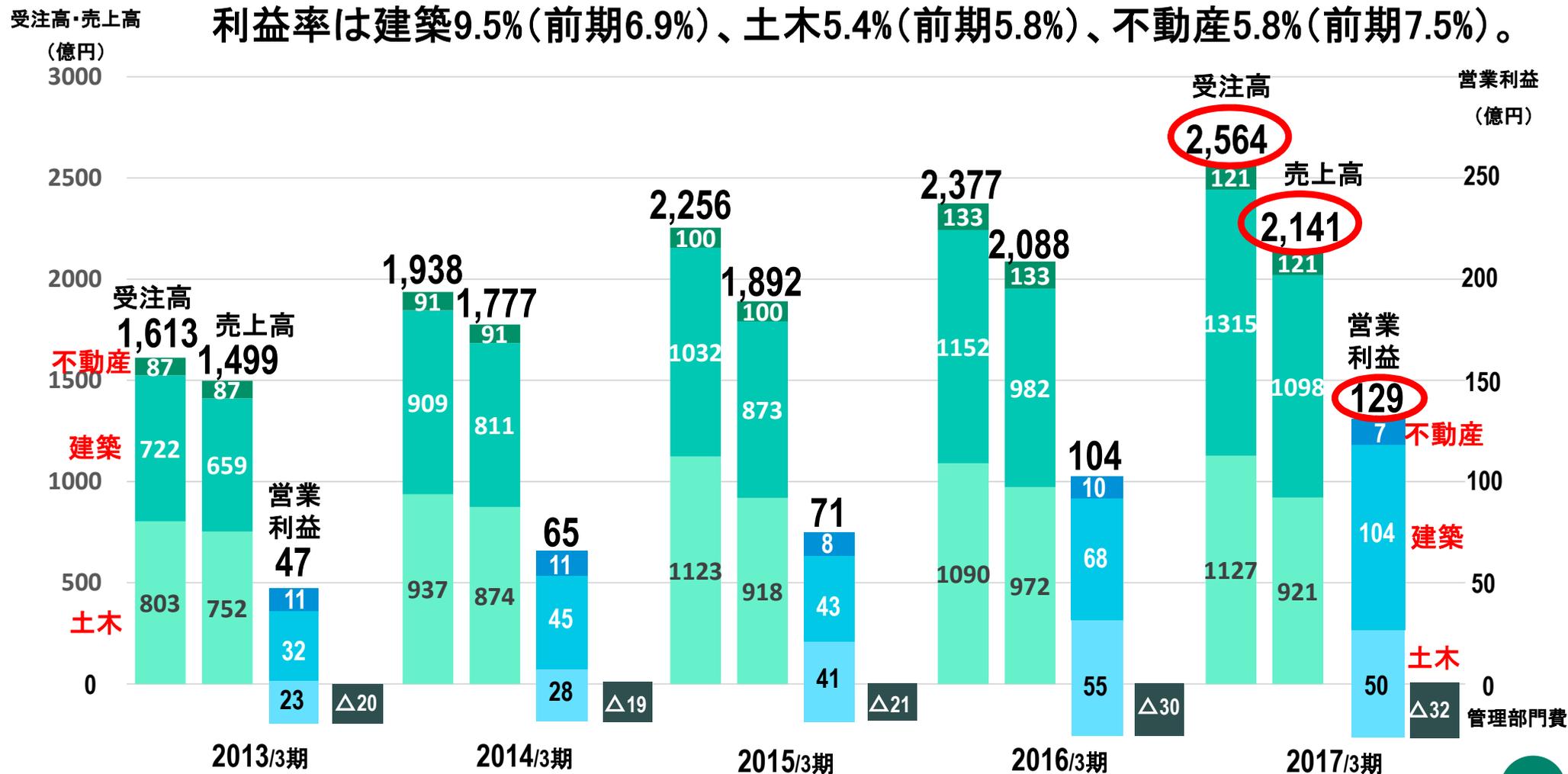
セグメント別 受注高・売上高・営業利益(連結)

【受注】 日建連97社は3.2%の伸びに対し、当社グループは7.9%伸び2,564億円へ。建築が163億円、土木も37億円の増。

【売上】 2,141億円。建築が116億円の増。土木は51億円、不動産12億円の減。

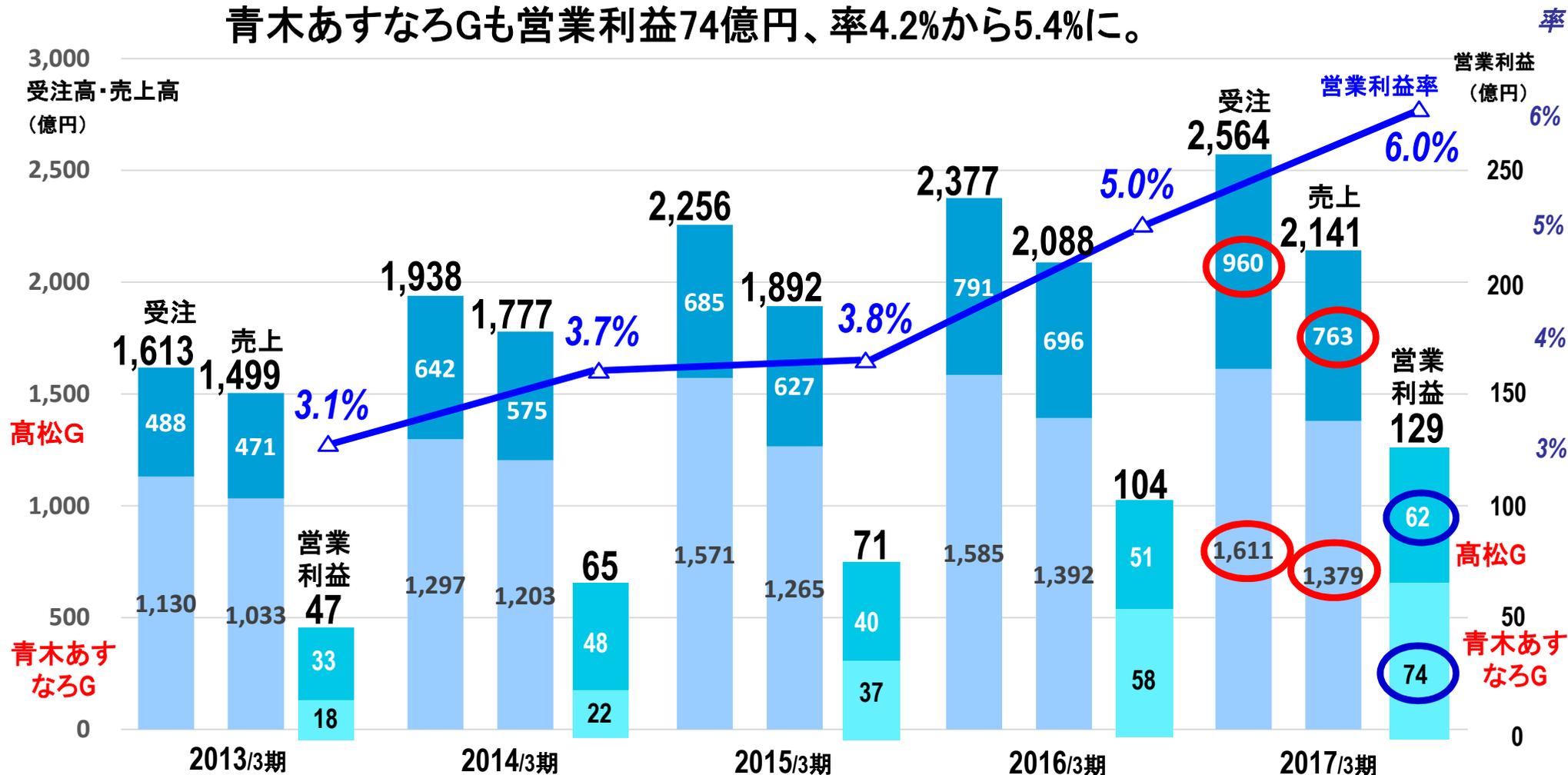
【営業利益】 建築が104億円(対前期 +36億円)だったが土木は50億円(△5億円)、不動産が7億円(△3億円)。

利益率は建築9.5%(前期6.9%)、土木5.4%(前期5.8%)、不動産5.8%(前期7.5%)。



グループ別 受注高・売上高・営業利益(連結)

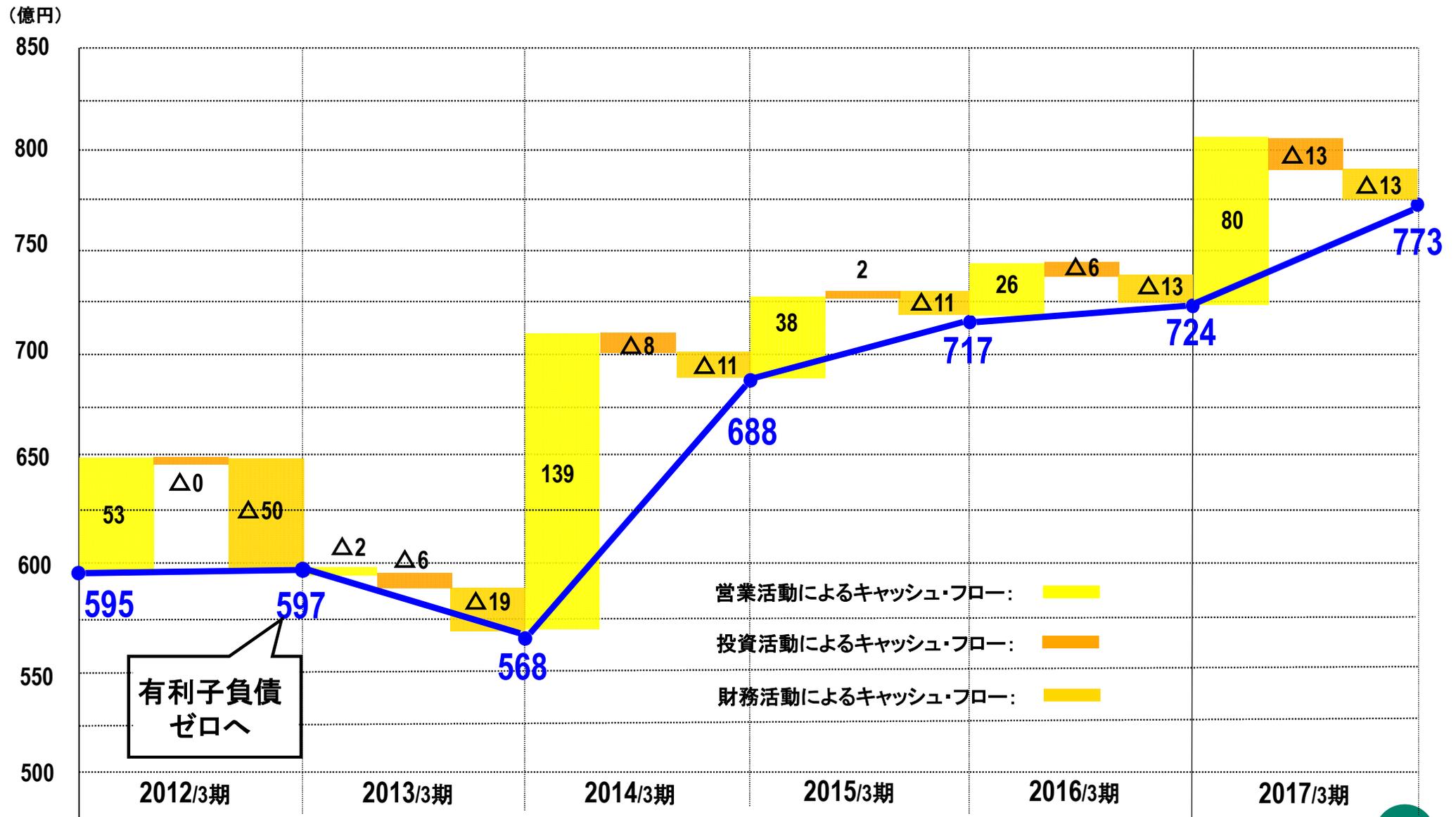
- 【受注】 高松Gは21.4%増の960億円となった一方、青木あすなるGは1,611億円と1.6%の伸びに留まった。
- 【売上高】 高松Gは9.6%増の763億円、青木あすなるGは微減で1,379億円。
- 【営業利益】 高松Gは営業利益62億円。率も7.4%から8.1%へ。青木あすなるGも営業利益74億円、率4.2%から5.4%に。



各数値が合算値と合わない部分は連結相殺・本社経費があるため。

キャッシュ・フローと現預金残高(連結)

年度末の現預金残は773億円。



貸借対照表(連結)

1. 資産合計は1,809億円で対前期156億円増、+9.5%。

2. 純資産合計は1,105億円で対前期59億円増、+5.7%。

(単位:億円)

勘定科目	2016/3期	2017/3期	増減額
流動資産	1,418	1,577	158
現金預金	724	773	49
受取手形・完成工事未収入金等	570	602	31
販売用不動産	34	71	36
未成工事・不動産事業支出金	25	44	19
繰延税金資産	16	15	△0
その他	50	73	22
貸倒引当金	△3	△3	△0
固定資産	233	231	△2
有形固定資産	137	136	△1
無形固定資産	2	3	0
投資その他の資産	93	92	△1
投資有価証券	58	56	△1
長期保証金	22	23	0
長期未収入金	9	7	△1
繰延税金資産	8	12	3
その他	3	1	△2
貸倒引当金	△8	△9	△0
資産合計	1,652	1,809	156

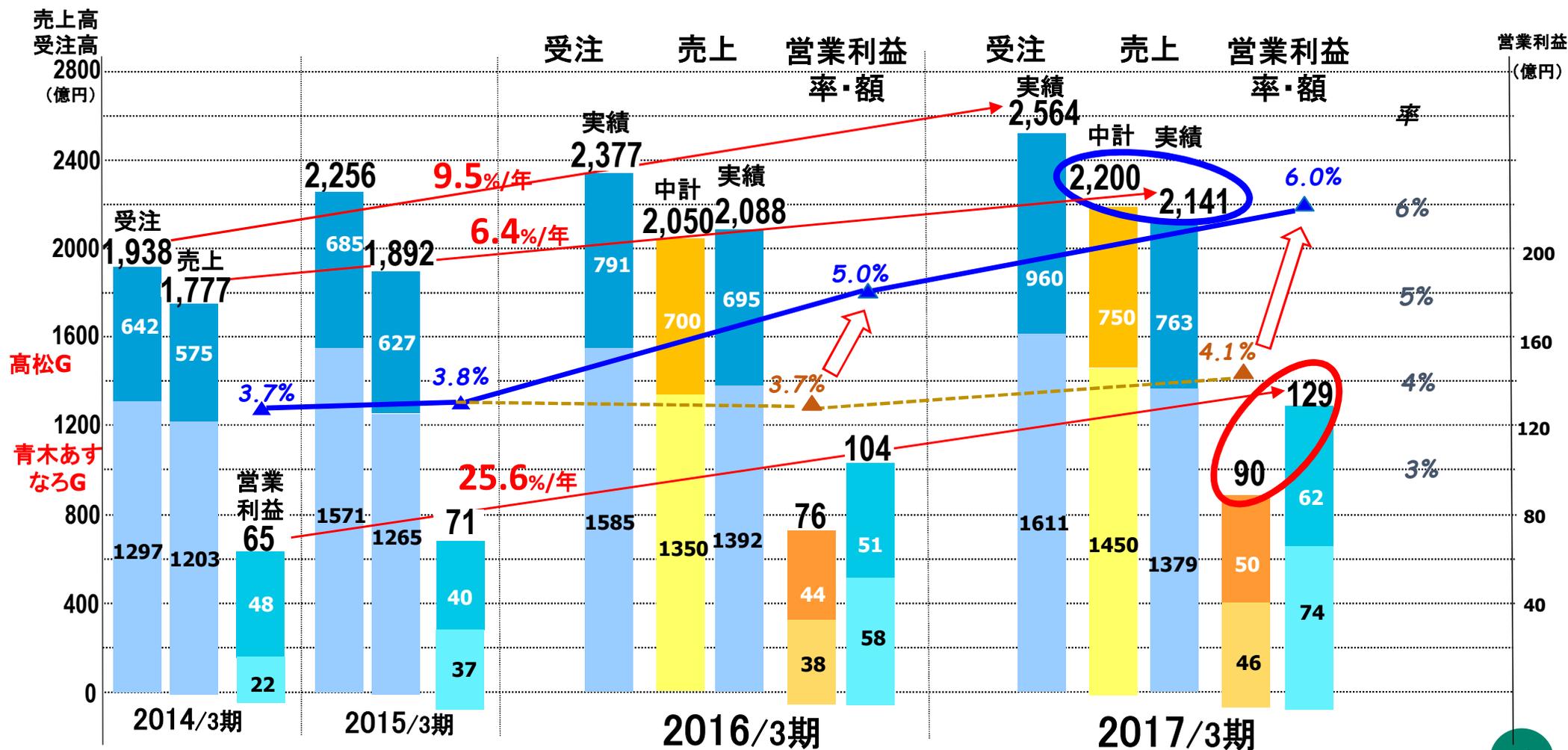
勘定科目	2016/3期	2017/3期	増減額
流動負債	482	576	94
工事未払金	258	297	38
未払法人税等	26	35	8
未成工事受入金	103	129	26
その他	93	114	20
固定負債	124	127	2
退職給付に係る負債	102	106	3
繰延税金負債	3	2	△0
その他	18	18	△0
負債合計	606	703	96
株主資本	915	968	52
資本金	50	50	-
資本剰余金	2	2	△0
利益剰余金	905	958	52
自己株式	△42	△42	-
その他包括利益累計額	△4	△5	△0
非支配株主持分	135	142	7
純資産合計	1,045	1,105	59
負債純資産合計	1,652	1,809	156

2020年3月期 中期経営計画 2018年3月期 業績予想

本資料に記載されている将来に関する記述は、本資料作成日現在で入手可能な情報にもとづいて作成したものであり、実際の実績等は今後様々な要因によって異なる可能性があります。また、当資料は投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

前回中期経営計画「New Light 2017」の総括

1. 前回の中期経営計画は、創業100周年である2017年に向け、2014年に「New Light 2017」計画としてまとめられ、2015/3期決算時に開示。
2. 中計最終年度の2017/3期は、売上高は中計にわずかに及ばなかったものの、営業利益は39億円のオーバー。
3. 2014/3期からの年平均伸び率は、受注9.5%、売上高6.4%、営業利益25.6%を達成。



2020年3月期に向けての市場環境認識と 高松コンストラクシヨングループの成長イメージ

環境認識

プラス要因

- 国内建設投資額は50兆円を上回る水準を3年は持続すると見る。
- 東名阪の世帯数は高水準を持続、新築住宅着工も好調持続を予想。
- 首都圏の賃貸マンション建設は当面好調が継続すると見る。

マイナス要因

- 国内建設投資は中計終了年度の2020年以降、縮小の見通し。人口も縮小トレンド加速。
- 建設労働者の減少に伴う原価の上昇トレンド。
- 賃貸マンション需要が金利上昇・空室率UPなどで急速にしばむリスクあり。
- 新設工事件数の減少。



高松コンストラクシヨングループとしての成長イメージ

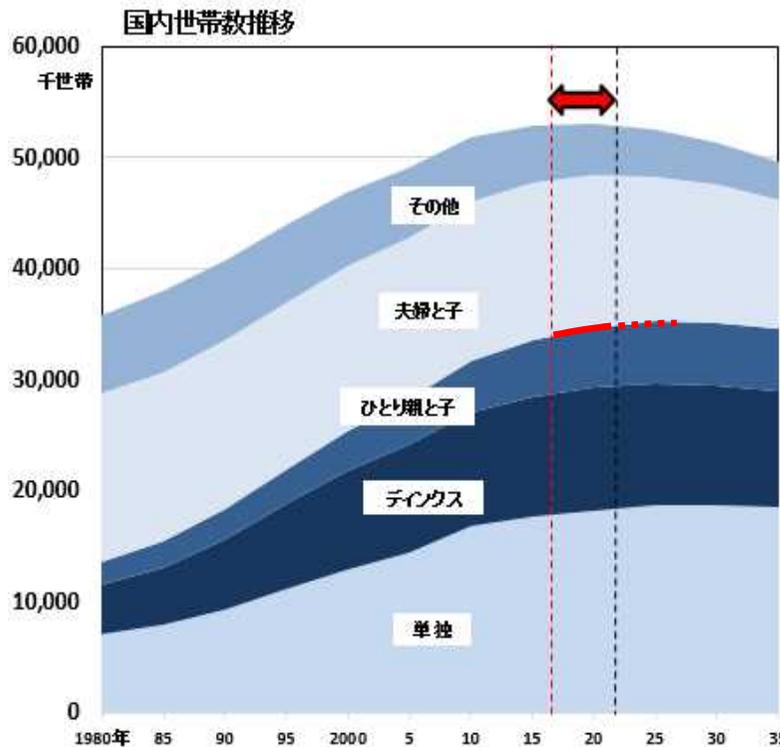
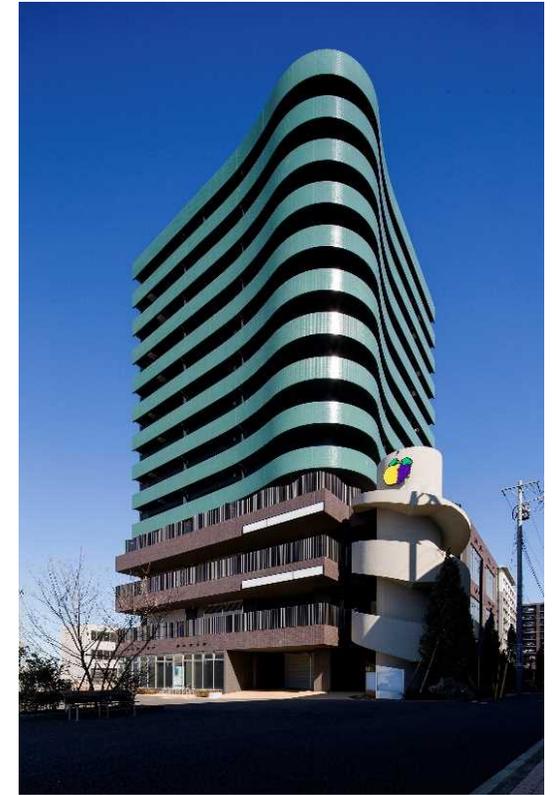
1. 好調な首都圏の賃貸マンションを成長の中核とし、受注拡大・持続的成長を可能にする体制構築を目指す。
2. その反面、中長期的に市場が現状並みから縮小すると考えられる土木・官公庁関連事業は、堅実なシェアアップ・高利益率の持続を目指す。
3. 上記が実現できる経営基盤も整備。

グループビジョンと中期経営方針：高松建設グループ（1）

1. 高松建設は、高松コンストラクショングループの母体となった中核会社。
2. 高松建設は、お客様に徹底的に寄り添ったビジネスモデルで確固たる地位を確立。
 - ① 土地有効活用ビジネスの先駆的存在（1960年代より確立）
 - ② 富裕層や法人企業への提案型営業
（税務・法務・土地購入・建築・賃貸・維持管理・修繕でのトータル提案）
 - ③ 駅前などの好立地にランドマーク的マンションを建設、高入居率・高賃料物件を提供
3. 2017/3期は、2期連続での 増注・増収・増益を達成。
4. 建築累積棟数は、首都圏 1,320棟、近畿・名古屋圏 3,180棟、

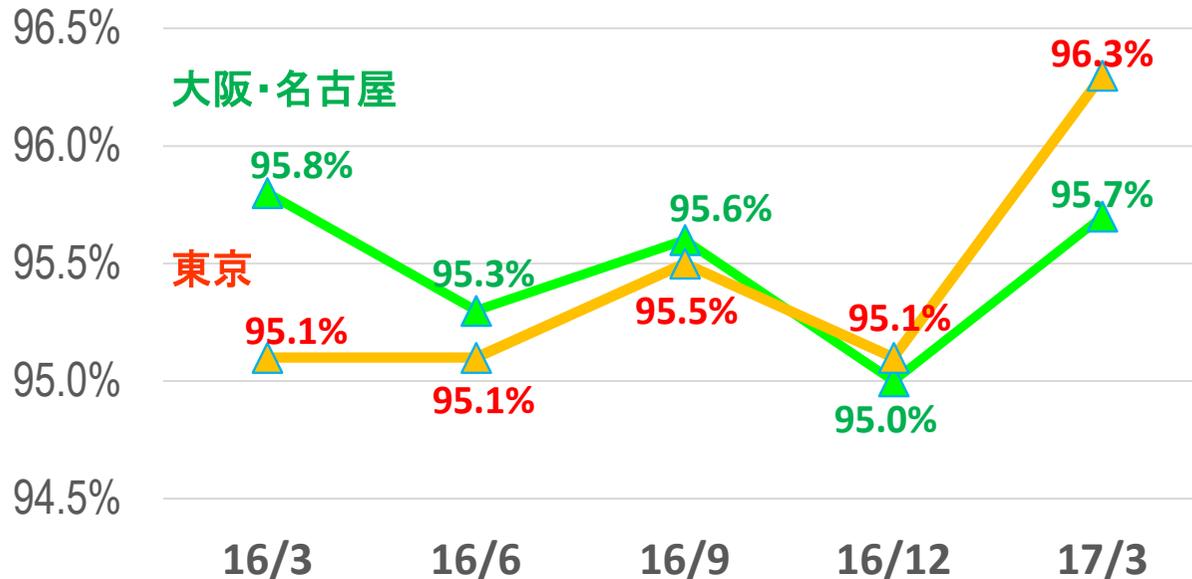
合計4,500棟の実績。

5. 今後の市場動向として、日本の世帯数は中計期間中はピーク値の継続が予想され、単身、デINKス、ひとり親と子世帯はさらに増加が予想されている。
6. また、この世帯数のピーク値の増加ないしは継続は、東名阪、特に東京で顕著。
7. 今後もピークが継続するとみられる東名阪、少人数世帯が、高松建設の主力施工案件である賃貸マンションのターゲット入居者。



グループビジョンと中期経営方針：高松建設グループ（2）

高松建設施工物件の入居率



定義 「大阪・名古屋」=大阪府、京都府、兵庫県、名古屋市
「東京」=東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県
「入居率」=各四半期末時点の高松建設施工物件の入居戸数
÷各四半期末時点の高松エステート(大阪、東京)が
管理している高松建設施工物件の総戸数

8. 堅調な市況の裏付けとなるのが、高松建設施工物件の入居率で、東京・大阪・名古屋ともに95%以上を維持している。

9. また、2014年3月期に比べ、2017年3月期の高松建設(単体)の受注高は、東京=16.3%/年、大阪+名古屋=9.7%/年の伸びであった。
(不動産、大型プロジェクトを除く)

10. この実績を受け、今回中計でも、2020年3月期までの受注高の伸び率はほぼ前回中計と同程度を想定し、首都圏は実績同様、二ケタの伸びを見込んでいる。

11. また、関東の建築市場全体は近畿圏の3倍。しかし当社売上高はまだまだ同程度。

その意味からも、高松建設は首都圏で伸ばせる余地は大きいと見ている。

12. この方針に合わせ、営業・設計・施工部隊も首都圏エリアを大幅増強中。

グループビジョンと中期経営方針：高松建設グループ（3）

13. 高松建設を大きく伸ばす計画に伴って、高松建設とシナジー効果の高い以下の4社を本年4月に社名変更。連携を強化し高松建設グループの成長を牽引します。

不動産管理



(株) 日本建商
売上高：107億円
(17/3、東京・大阪合算)



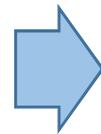
Estate

高松エステート (株)
売上高：140億円
(20/3、東京・大阪合算)

リフォーム
大規模修繕



やまと建設 (株)
売上高：43億円
(17/3、東京・大阪合算)



Techno

高松テクノサービス (株)
売上高：67億円
(20/3、東京・大阪合算)

14. また近年は、物流施設や病院、工場などの大型受注も増加中。
青木あすなろ建設とのJVなどを通じて、今後も伸ばす方針。



DPL流山 I (青木あすなろ建設とのJV)

15. 高松建設を中核に、2020/3期の売上高1,080億円を目指し、2017/3期に比べ、42%成長を目指します。

グループビジョンと中期経営方針：青木あすなる建設グループ

1. 青木あすなる建設グループは、東証一部上場企業の青木あすなる建設を中心とした9社で構成。
2. 青木あすなる建設単体での土木建築比率は受注高・売上高ともほぼ5:5。
3. 連結ベースでは、海洋土木に強みを持つみらい建設工業・青木マリーン、法面保護等が得意な東興ジオテック、舗装工事のあすなる道路・新潟みらい建設、リノベーション工事のエムズ、遺跡発掘・調査の島田組・アクセスが揃い、土木：建築が7:3と土木が中心。
4. 研究開発にも注力。（「既設橋梁の耐震性向上技術の研究」「複合露出柱脚」「折り返しブレース」「無人化遠隔施工における操作ガイダンス」等）
5. 青木あすなる建設単体で合併以来最高の営業利益を確保するなど、青木あすなる建設グループ連結で大幅な増益を確保し、2017/3期の高松コンストラクシヨングループの好決算に大いに貢献。2020/3期には売上高1,600億円を目指す。
6. i-コンストラクションへの積極的な対応による生産性向上と事業領域の拡大を目指す。

17/3期 代表事例 (1)

遠隔操縦式水陸両用機械による海岸保全復旧工法を採用した施工事例



17/3期 代表事例 (2)

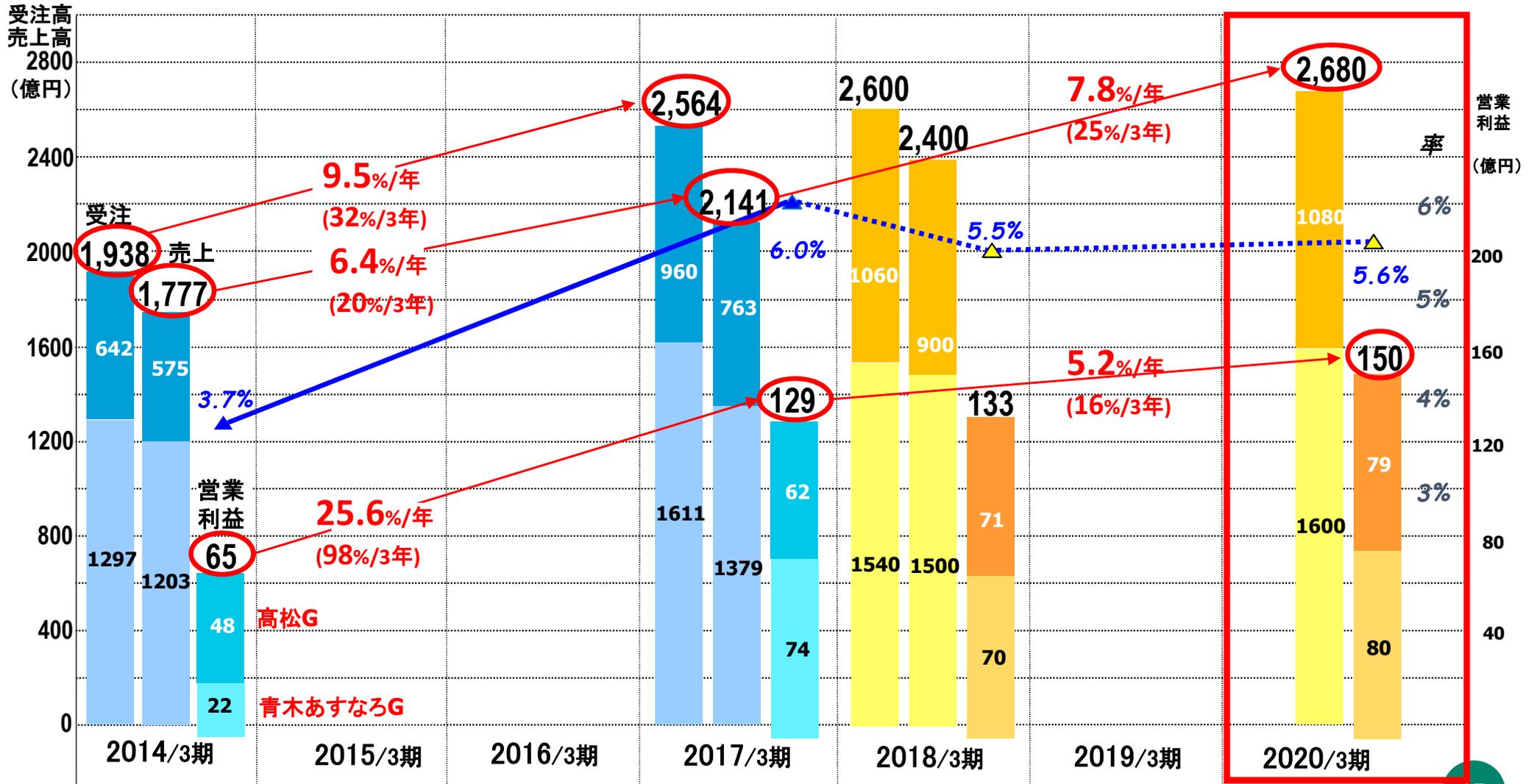
福島県警本部
総工費70億円を単独受注。



中計「TRY! NEXT CENTURY 2020」の概要

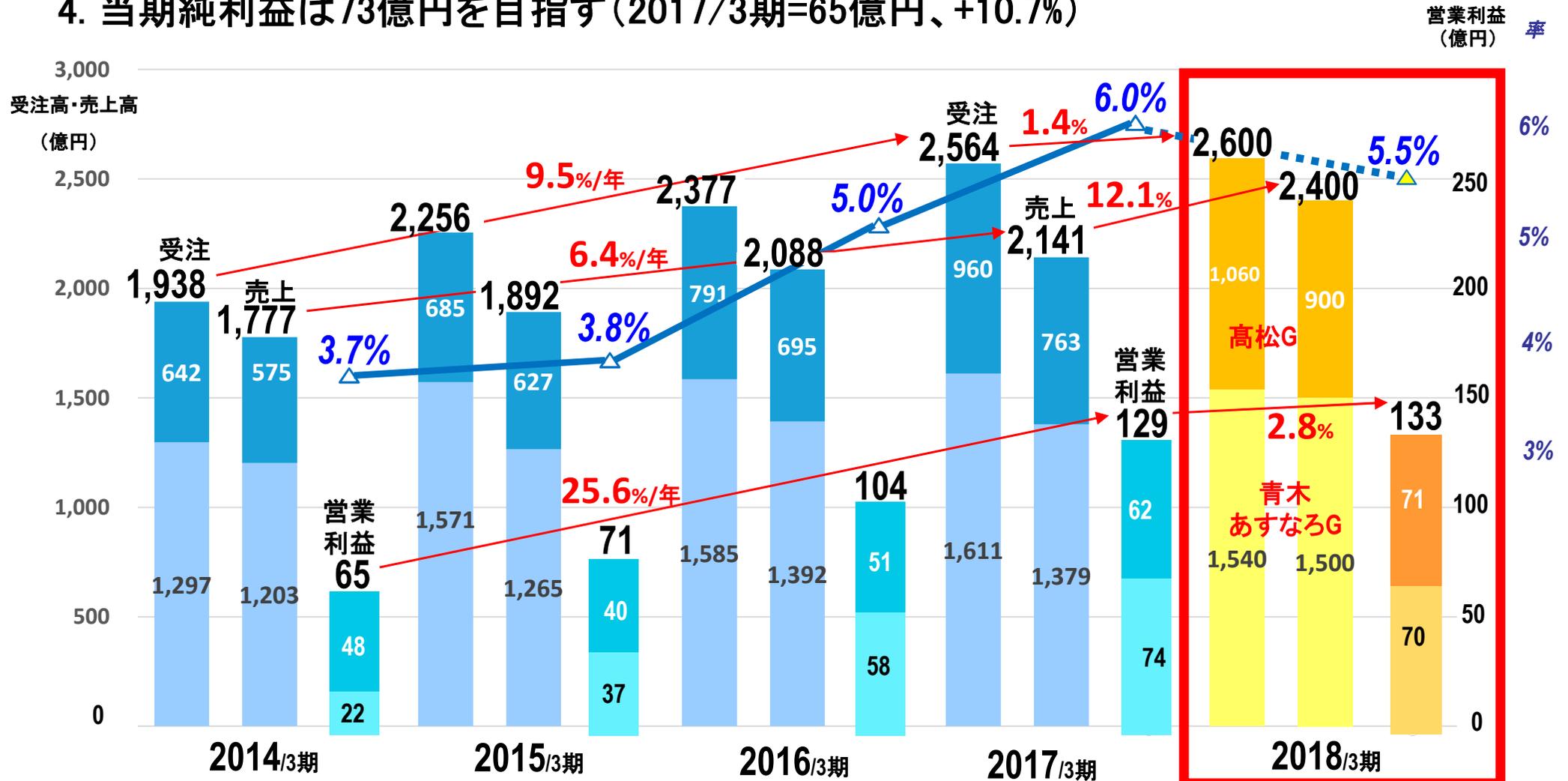
高松コンストラクショングループ全体のキーワード:

1. チャレンジ2680 → 2020年3月期の売上高2,680億円、年成長率 7.8%
2. スペシャリティ18α → 当社グループ事業会社18社の成長と、積極的M&Aの実施による事業拡大
3. クオリティ150 → 高品質で高効率な施工を維持・向上。2020年3月期に営業利益150億円達成



2018年3月期:グループ別 受注高・売上高・営業利益(連結)

1. 創業100周年であり、新中計初年度である2018/3期は、増収増益を目指す
2. 受注高は2,600億円を目指し、売上高も2,400億円(対前年+12.1%)を計画
3. 営業利益は高水準だった2017年3月期を受け、2.8%増の見込。利益率は5.5%
4. 当期純利益は73億円を目指す(2017/3期=65億円、+10.7%)



各数値が合算値と合わない部分は連結相殺・本経費があるため。

2018年3月期:業績予想サマリー

1. 創業100周年であり、新中計初年度である2018/3期は、増収増益を目指す。
2. 受注高は2,600億円を目指し、売上高も2,400億円を計画。
3. 営業利益は高水準だった2017年3月期を受け、2.8%増の見込。利益率は5.5%
4. 当期純利益は73億円を目指す(2017/3期=65億円、+10.7%)

(億円未満切捨)

	2017/3	2018/3	
	連結 実績	連結 予想	前期比 増減率
受注高	2,564 億円	2,600 億円	+1.4 %
売上高	2,141 億円	2,400 億円	+12.1 %
営業利益	129 億円	133 億円	+2.8 %
営業利益率	6.0 %	5.5 %	△0.5 ポイント
経常利益	129 億円	133 億円	+2.8 %
* 当期純利益	65 億円	73 億円	+10.7 %

※連結の当期純利益は「親会社株主に帰属する当期純利益」を示す。

2018年3月期：経営指標の目標（連結）

1. 配当額は9円増配した2017/3期に、記念配当10円を加えた53円/株を目指す。

→ 配当性向を意識。当面の目標であった25%を今年度超えたい。

→ 2019/3期以降も配当性向25%以上を継続したい。

2. 従業員数もハイペースの増強を継続。平均年齢も引き下げへ。

→ 新卒採用数：15/4=201名、16/4=161名、17/4=176名、**18/4=240名、19/4=220名**

項 目		2014/3期	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	
							増減
総資産	億円	1,546	1,621	1,652	▲ 1,809	▲ 1,900	5.0%
総負債	億円	605	630	606	▲ 703	▲ 730	3.8%
純資産（含非支配株主持分）	億円	941	991	1,045	▲ 1,105	▲ 1,170	5.9%
期末株価/株	円	1,835	2,566	2,426	2,603		
一株あたり配当額	円	▲ 25	▲ 27	▲ 34	▲ 43	▲ 53	10円
配当性向（%）	（%）	▲ (14.6)	▲ (15.3)	▲ (21.1)	▲ (23.5)	▲ (26.2)	2.7ポイント
自己資本利益率（ROE）	（%）	(7.9)	(7.6)	(6.5)	▲ (7.0)	▲ (7.3)	0.3ポイント
総資産経常利益率（ROA）	（%）	(4.5)	(4.6)	(6.4)	▲ (7.5)	▲ (7.2)	△0.3ポイント
従業員数	人	2,816	3,003	3,196	▲ 3,372	▲ 3,621	249
新卒採用者数	人	▲ 93	▲ 142	▲ 201	▲ 161	▲ 176	15
従業員平均年齢	歳	45.3	▲ 45.0	▲ 44.4	▲ 43.9		

コーポレートガバナンス報告書について

■今年度提出予定のコーポレートガバナンス報告書のポイントとなる2項目

基本原則1 株主の権利・ 平等性の確保

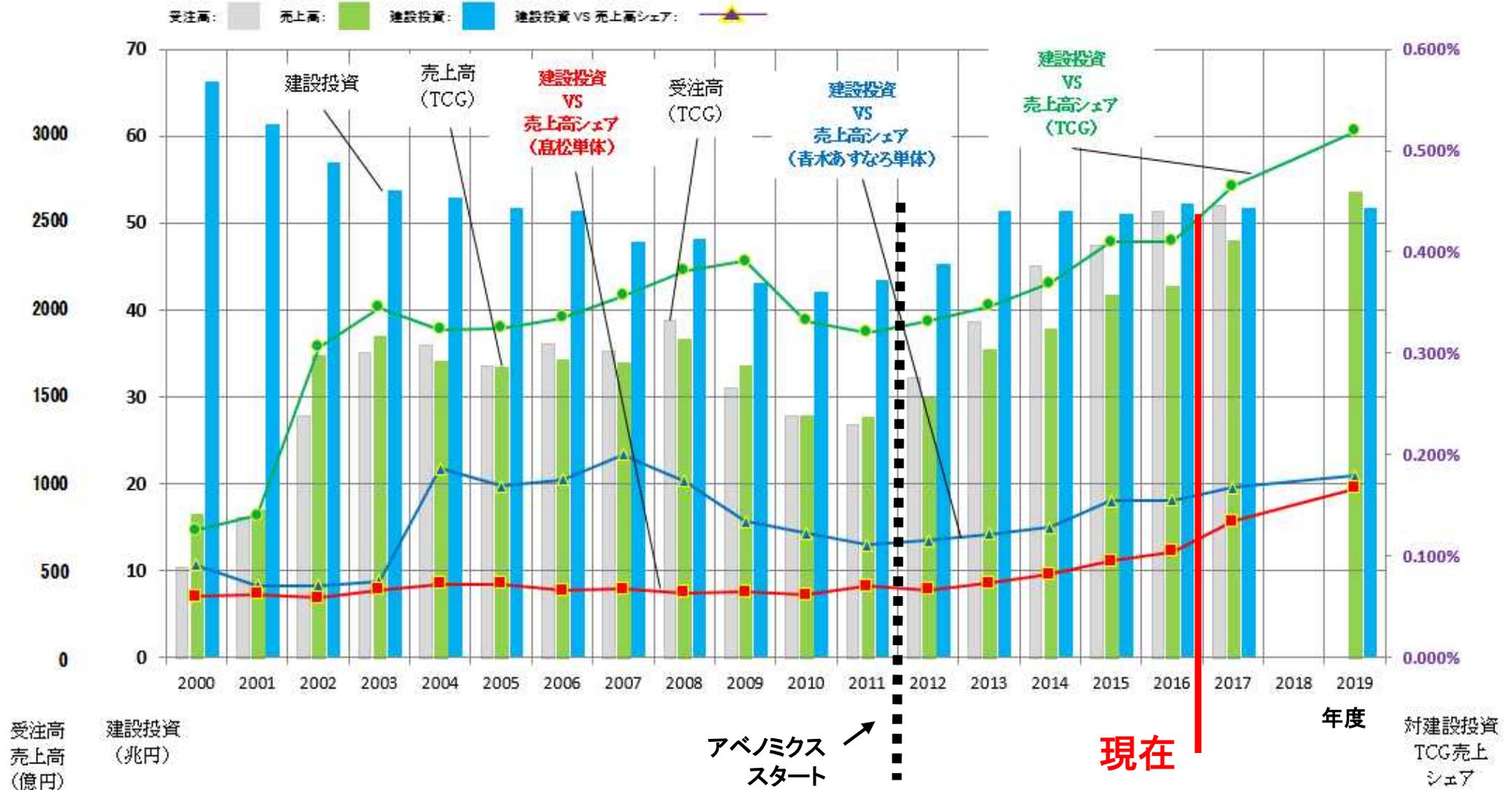
- 招集通知は総会開催の3週間前に発送（開催6/22、発送6/1）招集通知をTDnetおよび自社HPにて公表（5/24）
- 株主総会の開催は6/22と集中日を回避
- インターネットによる議決権行使・プラットフォーム提供（前期から）
- 英語版の招集通知の作成・開示（今期から）

原則4-11 取締役会の 実効性確保

- 企業経営経験の豊富な社外取締役2名が有効に機能
- 中期経営計画策定等において活発な議論を実施
- 業界環境や他社動向・技術動向の情報提供を行い、また、資料は取締役会1週間前に配布し、社外役員への事前説明等を適宜実施

7. 国内建設投資額推移と高松コンストラクショングループの歩み・展望

1. アベノミクス以降の当社グループの過去トレンドに沿った成長を継続する計画となっています。
2. 引き続き建設市場シェアでの漸増を目指しています。
3. 高成長を志向する高松建設は、売上高も2020/3期には青木あすなろ建設に肉薄する計画。





株式会社高松コンストラクショングループ